

KOKONOE
FreePaper

2019.3
vol.10

BASARE

九重からここのえへ

僕は列車の走る町に住んでいます

梅木 蓮くん

ねこ目線

『つくる』という仕事

掘 裕幸さん、後藤 清久さん
高橋 憲治さん、衛藤 友衣菜さん

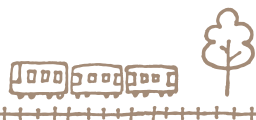


蓮くんと行く久大本線の魅力旅

僕は 列車の走る町に 住んでいます

名前:梅木 蓮くん(14歳)/趣味:鉄道関係/特技:剣道(二段)

鉄道をこよなく愛する14歳、梅木蓮(うめき れん)くん
彼の鉄道知識は、鉄道ファンの大人ですら驚きを隠せないほど
そんな蓮くんに九重町を走る久大本線の魅力や
意外と知らない鉄道スポットについて教えてもらいました



列車に興味を持ったキッカケは？

3歳の頃、両親からプレゼントしてもらった、ゆふいんの森号のプラレールがはじまりです。

列車の魅力は？

「音」と「見た目」です。

列車は僕にとって音楽と一緒になんです。例えば、悩み事があっても列車のディーゼル音を聴くと、なぜかそのモヤモヤが消えるんです。そして、誰もいない自然の中で列車という被写体に集中し、カメラを構えシャッターをきる。列車にはリラックスできる効果があると思います。

久大本線の魅力を教えてください。

自然ですね。

久大本線は、自然の中を走る列車の姿が素晴らしいですね。それと、列車の中から手を振る乗客とそれに応えるホームの人との距離が近いんです。まるで一緒に旅を楽しんでいるかのようです。とくに九重は、自然も多く、良い人が多いから遠方から人が集まってくるんだと思います。

列車の写真を撮る楽しさは？

一瞬でいかに美しく列車を撮るか、この緊張感が楽しさの一つですね。

撮影場所までの移動手段は？

近場は自転車で、遠方は軽トラで、じいちゃんに連れて行ってもらいます。

鉄道仲間はいいますか？

はい、います。

鉄道は、全国規模の出会いがあります。撮影先で出会う方には、必ず僕から挨拶をして、鉄道の話をしながら親交を深めます。

最近では、野矢駅で75歳の方と知り合いました、鉄道に年齢は関係ないんです。

同年代には、僕よりも鉄道のことが詳しい2コ上の先輩がいます。先輩との出会いは僕が中学1年の時、英語の授業で、「アイルイクトレイン」と自己紹介したんです。すると先生が、「れん、鉄道が好きなんか、うちの学校に鉄道好きが1人おるぞ!」と言って紹介してくれたのが先輩でした。先輩とは、今でも鉄道の情報交換をしています。あの時、「アイルイクトレイン」と言ってなかったら、先輩と出会ってなかったでしょうね。

何をしている時が楽しいですか？

剣道も楽しいですが、やっぱり鉄道です。ひとつ言えることは、剣道も鉄道も人の関わりです。出会った人というんな話ができること、それが楽しいです。

残念だったことはありますか？

中学の修学旅行で、みんなはユニバーサルスタジオジャパンに行くことが楽しかったんですが、僕は、その前にある「ユニバーサルシティ駅」に行きたかったです。この駅が、僕のテーマパークでした。行けませんでしたけど……通り過ぎる駅を、バスの中からずっと見ていました……。

列車と九重の魅力について聞かせてください。

自然、温泉、観光、地熱など、九重はとても恵まれたところだと思います。素晴らしい存在です。そして、その恵まれた土地を走る列車っていうのが僕は好きなんです。中には都会を好む人が多いですが、それは「憧れ」なんですよね。

感謝している人はいいますか？

います、それは家族です。撮影場所まで時間帯関係なく連れて行ってくれたり、家族の協力があるから僕はこの趣味を楽しめています。本当に感謝しています。

尊敬している人はいいますか？

じいちゃんです。じいちゃんは軽トラでどこまでも連れて

行ってくれます。軽トラの近い距離でいろんな話をしながら、じいちゃんと撮影の旅を楽しんでいます。「一眼レフカメラもじいちゃんがある日突然買ってきてくれました。だから大切に使っています。」

それと僕はじいちゃんの影響で農業にも興味を持ちました。じいちゃんとはあちゃんの農業をする姿がかっこいいんです。トラクターに乗っている姿や、水や土を見る姿、草を取る仕事、全てがかっこいいんです。

どんな大人になりたいですか？

優しく清潔な心をもった大人になりたいです。

将来の夢を聞かせてください。

もちろん、鉄道関係の仕事に就きたいです。人と話すことが好きなので「あそこの駅員いいよね」と言われるような駅員になりたいです。

それと、地域を活性化させて、無人駅を有人駅に変えていきたいです。不可能を可能にする、やってみたいですね。





南山田に、杉山から出てくる
列車が撮れる場所を
発見!!



中村駅に幻の3 番線が...

れんくん語録



時刻表を見るとき、
僕の頭の中では
列車が走ってます

time table

僕の尊敬する
じいちゃんです!



6



至大分

中村駅

野矢駅

れんくん語録



僕にとって列車の
ライトがイルミネー
ションです



5

僕の好きな撮影スポットです。



第四種踏切
遮断機と
警報機が
ないんです

7



W"ゆふいんの森"

れんくんフォト3

5

秋は棚田の掛け干しを背景に列車が走るんです。春から夏にかけては、緑が綺麗で、冬の雪景色の中の列車も素晴らしいです。

6

旧国鉄時代の貨物事業で使われていた貨物積みおろし専用ホームの跡があります。貨物は廃止されましたが、検査車両をとめる場所として今でも使われています。

7

野矢駅は、「ゆふいんの森」が横並びになる場所として、ファンの間で有名な駅なんです。



新しい出会い

取材の日、池田さん(埼玉県)と、
新井さん(千葉県)との出会いがありました。
「雨の中の撮影も雰囲気が出ていいんですよ」



All
Aboard!

僕の

オス・ス・ナ スポット

ご紹介します!

れんくん語録

予備線路は
僕にとって、
「金の延べ棒」です

至久留米
←

2

れんくんフォト!

恵良駅の留置線に謎の列車が...

恵良駅

引治駅

旧宮原線→

3
廃線になった
旧国鉄宮原線...

1

見留に
遮断機のない
踏切が...

れんくん語録

僕の列車の旅に
失敗はありません!

4

引治駅に
旧貨物線の
ホームと
線路跡...

1

踏切の種類は4種類あります。その中で遮断機(棒)の付いていない踏切を、第三种踏切と言います。この珍しい、第三种踏切が見留にあるんですよ。ちなみに、もっと珍しい第四種踏切が中村駅にあります。

2

これは、バラスト分散車といって、バラスト(線路の砂利)を運ぶ為の専用車両です。終電が終わった後、移動し作業するのですが、たまに恵良駅の留置線にとまってるんです!バラストは、レール・まくらぎへの荷重を受けるクッションの役割や、列車の走行を安定させると同時に、音を吸収し、線路周辺の建物などに伝わる振動を軽減させる大切な役割があります。見れたらラッキーですよ!

3

恵良駅→町田駅→宝泉寺駅→麻生釣駅→北里駅(熊本県)→肥後小国駅(熊本県)を結ぶ「宮原線」が通っていたことをご存知ですか?1980年の国鉄再建法の施行を受け1984年に廃線となりましたが、恵良駅から南山田、小国にかけて、『実はここが線路だった!駅だった!』という場所が今でも多く残っています。

4

引治駅のホームに行く途中、昔使われていた貨物用の線路があったんです!溪和の入り口まで旧貨物線が延びていたんですよ。

ここでゴロゴロするニャ〜



日野書店の
ガチャガチャ



minami
yamada

設置して、30 年以上になるらしいニャ
メーカーさんとご主人が、
「大分はガチャガチャがよく売れる県」
って話してたニャ



せきどう
六地藏石幢



六角形の石幢（せきどう）ニャ
よく見るとそれぞれの面に、
お地藏様が彫られているニャ
昔からこの地区を守っているニャン
* ほかの地区にもあるらしいニャンよ



生目神社



応神天皇と藤原景清公が
祀られている眼病に
ご利益のある神社ニャ

higashi
handa

後辻から見る夕暮れ



宝石みたいで
きれいだニャ



龍門小滝
付近で
発見ニャ!!



気になるニャ!!



ねこ目線

私は気楽な野良ねこニャ
私が散歩している時に見つける
気になった場所や
好きな場所を
こっそり紹介するニャ
よかったら探しに行ってみてニャ



nogami

飯田を一望できる丘



交通安全の標識



← 筋湯の
細い道にあるニャ
方言はいいニャ
伝わるニャ

鉾神社



旧宮原線
ホーム跡ニャ



杉の木の迫力が
すごいニャンよ!



立石池



山の中に
池があるニャ!!

竹林道



昔は岩の下に観音様が
祀られてたニャン



安産祈願に置いて
ある帯を持ち帰るニャ
安産のあかつきには、
新しい帯を作り、お礼参りをするニャ
そして、作った帯を奉納するニャ

甘川水の地藏様



← 安産祈願の
お参りをするニャ
年に一度、地元の人が
お祭りをするニャンよ～



佛ヶ岩子安観音



『つくる』という仕事

米農家が酒米を作り、
その米を使い杜氏と蔵子が酒を造る
出来上がった酒は、企画・広報、販売の手によって
世に出す流れがつくられる

今回は、酒造りに携わる4名の“つくる”についてお話を伺いました



酒造りに携わる人たちの存在を一言で表すなら・・・

立場は違うけど、
それぞれがいいものを
目指してやっている。

繋がった
人たちやね。

感謝でしか
ないですね。

同志ですね。



米農家

九重ファーマーズマーケット

高橋 憲治さん

米作り歴 7年目・45歳
趣味: ゴルフ・スキー・スノーボー

アメリカの大学を卒業後、日本に帰国。日本中を渡り歩いた後、九重へ帰郷しスキー場で社員として働くが37歳の時、「社長になりたい!」という思いから、米農家の世界へと飛び込む。現在、八鹿の酒に使われる酒米、五百万石の生産を主に行っている。



六代目 杜氏

八鹿酒造株式会社

堀 裕幸さん

入社歴 42年目・59歳
趣味: 読書・旅行・熱帯魚

高校卒業後、農家の長男として家を継ぐ予定だったが、八鹿の関係者だった伯父から声がかかり入社。現在では、六代目杜氏として、繊細な感覚と判断力、そして確実なデータ管理のもと、八鹿の酒を巧みに造り出す。



副杜氏

八鹿酒造株式会社

後藤 清久さん

入社歴 41年目・57歳
趣味: 海釣り

自然な流れで八鹿に入社したという後藤さんは、これまでの知識と経験を活かし、清酒部門のプロフェッショナルとして、杜氏と共に八鹿の味を守り続ける。



経営企画部

八鹿酒造株式会社

衛藤 友衣菜さん

入社歴 6年目・28歳
趣味: 洗濯

大学卒業後、県外に就職が決まっていたが、両親から地元での就職を希望され帰郷する。その後、八鹿の関係者から声がかかり入社。商品企画から販売・広告宣伝など仕事内容は幅広い。

* 杜氏(とうじ)・・・酒造りの総責任者 * 副杜氏(ふくとうじ)・・・現場のリーダーとして指揮をとる(頭ともいう)

9 * 蔵子(くらこ)・・・杜氏の下で日本酒造りに従事する職人(蔵人ともいう)

新

酒の出来上がりを知らせる酒林が、茶色へと変化し始めた頃、ほのかな甘い香りに誘われやって来たこは、九重を代表する歴史ある場所、八鹿酒造株式会社「普通酒」にして銘酒」を掲げ、江戸時代末期の元治元年（1864年）、八鹿酒造の歴史は始まった。あれから155年、今も変わらず八鹿の味を守り続ける杜氏の堀さんと、副杜氏の後藤さん、そして酒米の五百万石を八鹿に卸す米農家の高橋さんと、企画広報に尽力する衛藤さんに、それぞれの仕事への想いを聞いてみた。

「つくる」ことの楽しさ、面白さとは・・・

堀 蔵の責任者という立場上、「順調に発酵させ、毎年入ってくるお米の性質を自分なりに分析して、どのくらい水を吸わせて蒸すのかなどを考える面白みがありますね。」それが上手くいって、美味しい酒になれば、なお嬉しいです。上手くないときは、ずっと引きずります。次に造るのはまた来年になり、その時の米の条件もまた違うので、それが苦労でもあり、造る楽しさでもあります。酒造りは、感性・経験・データです。昔の人は、技を盗めと言ったけど、今の人はそれは不得意だと思います。私は、指示もしますが、自分で工夫し自分で決める面白さも蔵の人に伝えていきます。

後藤 手をかけたものが最終的に出来上がった時の面白さがあります。杜氏の手のかけ方などをみて、それがどういう意味合いだったのかを自分なりに考えます。最終的にどういう風に仕上がったのかを確認しながら、出来上がったお酒を飲むのがいいですね。

高橋 収穫の時は、「うわー、お金やー」って思うね（笑）ゲームみたいに、自分次第で農機具などをどんどんレベルアップできるところが農業の面白さだね。でも、米の収穫は1年で1回だけ。それを考えると、65歳まで米を作れたとしても、あと20回しか作れんよ。

365日×20回と考えると、「明日があるから」という気持ちになるけど、



するところです。ワインのように「今年は豊作の年だからいいワインが出来ました」というのは清酒には当てはまりません。不作の年の酒米を使ったほうが、かえってみんな気をつけて造るから良い酒が出来たのです。僕らが大変というよりも、酒米を作っている米農家さんの方がもっと大変なんです。いい酒を造るための酒米は、それなりの熱意を持って作った酒米がいいんです。ある生産者から言われました、「米のことは色々言うな、百姓に任せちゃいいい！」と。

後藤 雑味と色をとる為に、炭素を入れてる過する作業があるんですが、炭素を入れ過ぎると、雑味と一緒に旨味や香りまで薄まるんです。その量の加減が難しいですね。あとは、若い蔵子に説明する時、どう伝えればわかりやすいかなどを考えますね。

衛藤 全国で取り扱う商品になると、商品発売の6ヶ月前には、商品の枠組みをすべて決めなければいけません。それに間に合わせるのが大変ですね。あとは、私がいちばん苦戦するのは、ネーミングです。トリッキーな名前にしすぎて中味の味がわからないし、何かに紐付けてプラスその意味がい意味だったり、縁起が良かったりというのが必須で、尚且つ、あまり使われていないものを考えます。作業の中で、いちばん時間がかかりますね。

高橋 怖いのは自然やね。台風が来たら終わりだからね。その他のことは自分たちで調整できるけど、天気のことはどうも出来ない。酒米は雨でも倒れるから、普通の米を作るより難しいんよ。始めた頃は失敗の連続だったね。

「つくる」うえでのこだわりは・・・

堀 私の後藤くんも、農家なので、米作りの苦労はわかっているつもりなんです。その苦労して作ってくれた酒米を、僕らは削って削って溶かしてお酒

20 回分の 1 と考えると、「今日やっちゃかなー」と思うようになったね。この考えになってから、寝る時間がもつたなくて、「明日はこうしようー」って、ワクワクするんよ。嫁からは、気持ち悪いくらいのプラス思考はやめてくれん！って言われるけどね（笑）

衛藤 お歳暮の時期、私たちはお中元の段取りをするなど、どんどん先を行かないといけませんし、ブームを先に読まないといけません。その大変さがありますが、同じ作業があまりないので飽きないですね。自分がこうしたいと思えばそれが出来るし、自由にやらせてもらっているので面白いですね。

「つくる」うえでの苦労や難しさは…

堀 難しいのは毎年、酒米の質が違います。米農家さんも、天候によって作りやすい年や作りにくい年があると思うんです。産地も土地も気候も違うお米が集まってきて、それぞれの酒米で、八鹿の酒を造らなければなりません。だから、創意工夫して美味しいお酒にします。そこが一番苦労

にするんですよ。だから、その苦労を無駄にするわけにはいかないんです。せっかくなので作った酒米で、うまい酒を造らなければいけないという責任感があります。どんなことがあっても、とにかくうまい酒を造る！それが私のこだわりです。

後藤 自分のやっている作業を間違いないようにちゃんとする、ただそれだけです。こだわりというより、当たり前のことですね。

衛藤 良い意味でも、悪い意味でも、良いところの真似をするというのは意識しています。私の頭の中で考えることは、すごく小さな範囲ではないので。

高橋 農家は収量が大事なので、どのタイミングで、どのくらい肥料をやれば倒れないのか、どの場所が最適かなどを毎年試しながら作っています。始めた頃は失敗の連続で収穫は全くなくて借金だらけでね、このまま農業は無理やなって思った時もあったけど、とにかく諦めず色々試し続けて、今年はずっと 1 等の酒米が出来たんですよ。とにかく、去年よりも収量がなくて、去年よりもいい米を作りたい。前の年より、一歩でも前に進みたいんよ。



酒林(さかばやし)...

新酒が出来たことを知らせるもので、酒が出来上がった頃、酒林は枯れて茶色く変化する。杉玉とも呼ばれる。



「九重からこのえへ、しあわせのおすそわけ」をテーマに、

ふだん着姿のたくさんのいいもの・いい人を町の人が発見し、まちの人へ伝えるフリーペーパーです。

*バサレとは、大分の方言で「たくさん」という意味です。

発行日：2019年3月15日 発行人：九重町公民館 BASAREプロジェクト 本書への問い合わせ先：九重文化センター 大分県玖珠郡九重町
TEL：0973-76-3888 Mail：bunka@town.kokonoe.lg.jp Facebook ページ：https://www.facebook.com/basare.kokonoe/
バソクナソバーは九重町HPからご覧いただけます。本書は、無料で配布しております。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することを禁じます。 Printed in Japan © Kokonoe Town.

QRコードから
九重町バサレページに
ジャンプします。

